■特長

この時計は、1/1000秒単位計測の100時間計(ストップウオッチ機能)と、連続99回までの繰り返し使用が出来、最大９時間59分まで設定出来るタイマー機能を持っています。
前回ラップを10秒前から知らせる予告機能(ストップウオッチ機能)付で、モータースポーツ観戦等にお使いいただけます。又、計測したデータ(ラップ／スプリット、速度)は自動的にメモリー(記憶)し、リコール(呼び出し)することが出来る機能を合わせ持ったコンビネーションクオーツです。

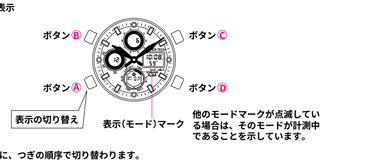
=アナログ部=
「時刻機能」
●２針(時・分)
●ボタン操作により時刻を修正します。
=デジタル部=
「時刻・カレンダー機能」
●月の大小や、うるう年でも修正不要の「フルオートカレンダー」(1993年～2042年)機能付です。
「ストップウオッチ・タキメーター機能」
●100時間計(1/1000秒単位)
●「ラップ／スプリット」「速度」計測と同時に、100個のデータを自動的にメモリー(記憶)します。
「ラップインジケータ機能」
●前回のラップタイムの10秒前になりますと、予告音が１秒毎に10秒間鳴り、前回ラップタイムと同じタイムになるとタイムアップ音で知らせます。
「リコール機能」
●メモリーされたデータを、計測後はもちろん、計測中でもリコールすることができます。
「タイマー機能」
●10時間計(減算タイマー：１分単位)
●セット時間の３秒前になると予告音(３秒間)で、セット時間になると、タイムアップ音(５秒間)で知らせます。
●リピート回数は、99回までセットできます。
「アラーム機能」
●５チャンネル(ch)のデイリーアラーム機能付、各ch、アラームのON／OFF(セット／解除)切り替えができます。

■製品仕様

1．水晶振動数：32,768(Hz＝１秒間の振動数)
2．精　　度：平均月差±20秒（気温５℃～35℃において腕につけた場合）
3．作動温度範囲：－５℃～＋50℃
4．使用温度範囲：　０℃～＋50℃
5．表示内容：
●アナログ(針)部
時・分(２針)
●デジタル部
「時刻・カレンダー表示」
月、日、曜日、AM／PM(12時間制のとき表示)
時、分、秒、時刻・カレンダー表示マーク、(アラーム・報時マーク)
グラフィック表示
「ストップウオッチ表示」
100時間計(時、分、秒、1/1000秒)、LAP回数
速度表示(Km・mile/h、Err)、LAP・STOPマーク
グラフィック表示、ストップウオッチ表示マーク、(アラーム・報時マーク)
修正時：距離(Km・mile)
「リコール表示」
ラップタイム(時・分・秒・1/1000秒・時・速・Err)
スプリットタイム(時・分・秒・1/1000秒)
LAP回数、リコール表示マーク、(アラーム報時マーク)
切替え表示
「タイマー表示」
10時間減算タイマー(時・分・秒)、リピート回数(１～99回)
繰り返した回数(１～99回)、STOPマーク、タイマー表示マーク
グラフィック表示、(アラーム・報時マーク)
「アラーム表示」
デイリーアラーム(５ch)　時・分・AM／PM(12時間制のとき表示)　ON／OFF(セット／解除)
アラーム表示マーク、(アラーム・報時マーク)
6．駆動方式：ステップモーター式
（アナログ部）
7．表　示　体：FE型ネマチック液晶
（デジタル部）
8．使用電池：銀電池　SB-BU　１個(SR-1130W)
9．電子回路：C-MOS-LSI　１個
※上記の製品仕様は改良のため予告なく、変更することがあります。

■ボタンの名称

例：時間・カレンダー表示



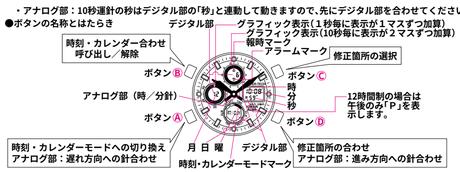
●ボタンAを押すごとに、つぎの順序で切り替わります。

時刻・カレンダー表示 －TIME－ → ストップウオッチ 表示 －ST.W－ → リコール表示 －RCL－ → タイマー表示 －TMR－ → アラーム表示 －ALM－

※操作確認音がセットされていますと、表示を切り替える毎に「ピッ」と鳴ります。
（操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。）

■時刻・カレンダーの合わせかた

・アナログ部：10秒運針の秒はデジタル部の「秒」と連動して動きますので、先にデジタル部を合わせてください。
●ボタンの名称とはたらき



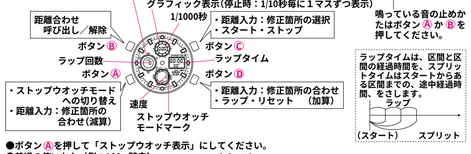
●ボタンAを押して「時刻・カレンダー表示」にしてください。
①ボタンBを２～３秒間押し続けると、上段の表示部が消え「秒」が点滅を開始して、「時刻カレンダー合わせ」状態になります。
※「時刻・カレンダー合わせ」状態にしますと、アナログ部の分針は補正のため、遅れ方向に動く場合があります。
②報時と同時にボタンDを押すと「00」に合います。
※秒表示が30～59秒のとき、ボタンDを押すと１分繰り上がって「00」に合います。
※時刻合わせは電話の時間サービス(TEL117)が便利です。
③ボタンCを１回押すごとに次の順序で合わせたいところ(点滅部)を選ぶことができます。
※年月日をセットすると「曜」は自動的に設定されます。

ボタンCを押すたびに修正箇所が替わります。
→ 秒 → 分 → 時 → 日 → 月 → 年 → 12H/24Hの切り替え → ◉SET(時・分針) →
デジタル部　アナログ部
④合わせたいところを点滅させたあとボタンDを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。(「12H/24H」「SET」「秒」を除く)
※ボタンDを押し続けると、早送りできます。
⑤デジタル部が合わせ終りましたら、ボタンCを押して「アナログ部の合わせ状態」にします。
⑥「アナログ部」の時刻を、ボタンA・Dを使って「デジタル部」の時刻(時・分)に合わせます。
針がもどります
ボタンA：遅れ方向(左回転)への針合わせ
ボタンD：進み方向(右回転)への針合わせ
針が進みます
※ボタンA・Dは１回押す毎に分針が動きます。
押し続けると早送りできます。
⑦「時刻・カレンダー合わせ」が終わりましたら、ボタンBを１回押して「時刻・カレンダー表示」にもどしてください。押し忘れた場合でも２～３分後には「時刻・カレンダー表示」へ自動的にもどります。
※カレンダーは1993年から2042年までの年・月・日がプログラムされていますので、この間、月の大小や、うるう年でも修正する必要はありません。
※報時機能については、「アラームの使いかた」を参照してください。

■ストップウオッチ(タキメータ)の使いかた

・1/1000秒単位、100時間計
・最大計測時間99時間59分59秒999
・ラップ最大計測時間9時間59分59秒999
・時速計測範囲0～999km/h(mile/h)
・ラップ回数は199回まで表示します。
・データは100(ラップ・スプリット・速度)個までメモリーします。
・距離入力範囲0.00～999.99km(mile)
・前回ラップの10秒前から予告音・タイムアップ音で知らせます。

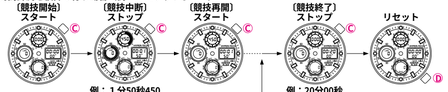
●ボタンの名称とはたらき



ラップタイムは、区間と区間の経過時間を、スプリットタイムはスタートから各区間までの、途中経過時間、をさします。
ラップ
(スタート)　スプリット

●ボタンAを押して「ストップウオッチ表示」にしてください。
●普通の使いかた（例：100m競走）

●時間計測を積算で行う場合（例：バスケットボール）



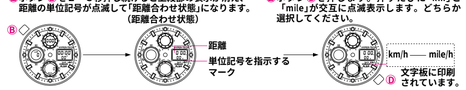
ボタンCを押すことで途中のスタート／ストップは何回でもくり返すことができます。

●ラップタイムを測る場合（例：マラソン）

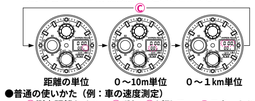
ラップタイム(15分01秒000)
ラップ計測後、５～６秒たつと、ラップマークが消え、自動的に計測状態に戻ります。
ボタンDを押すことで途中のラップは、何回でも、くり返すことができます。
５～６秒たつと、ラップタイムがスプリットタイムに切り替わります。

※前回ラップの10秒前になりますと、予告音が10秒間鳴り、前回ラップ時はタイムアップ音で知らせます。
ラップインジケーター機能以降、ラップを取りませんと鳴りません。(ラップタイムの最小計測時間は10秒間です)
※100時間以上計測すると、自動的にスタート状態に戻ります。
※ラップ回数は199回まで表示します。
※操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。
※ボタンDを押すごとに「ラップ／スプリット」が計測され、100個までメモリーされます。ただし、101回目以降はメモリーされませんのでご注意ください。（距離が入力されていますと「速度」も計測しメモリーされます。）
※計測したタイム(ラップ／スプリット)をメモリー(記憶)し、計測中でも、計測後でも自由に呼び出せます。
→「リコール表示」を参照してください。

－タキメータの使いかた－
●ボタンAを押して「ストップウオッチ表示」にしてください。
※ストップウオッチが計測中の場合は、リセットさせてください。
●測定距離の合わせかた
①ボタンBを２～３秒押し続けると上段部の表示が消え、距離の単位記号が点滅して「距離合わせ状態」になります。
②ボタンDを押します。押すたびに「km」と「mile」が交互に点滅表示します。どちらか選択してください。

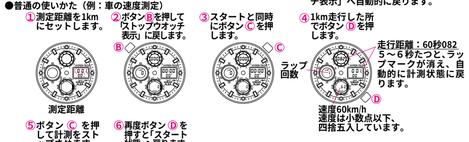


③ボタンCを押します。ボタンCを１回押す毎に、次の順序で合わせたい所(点滅部)を選ぶことができます。



④合わせたい所を点滅させたあと、ボタンDを１回押す毎に点滅している数字が１ずつ進みます。又、ボタンAを押すと減算もできます。
※ボタンDを押し続けると、早送りできます。
⑤距離セットが終わりましたら、ボタンBを押して「ストップウオッチ表示」に戻してください。押し忘れた場合でも、２～３分後には「ストップウオッチ表示」へ自動的に戻ります。

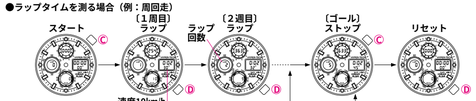
●普通の使いかた（例：車の速度測定）



⑤ボタンCを押して計測をストップさせます。
⑥再度ボタンDを押すと「スタート状態」へ戻ります。
※速度が1,000km/h(mile/h)以上になりますと、速度表示の所がエラー(Err)表示します。

タキメータ：設定した距離で走行した時間を測定し、その時間から平均時速を換算表示する機能です。
走行距離／走行時間＝時速

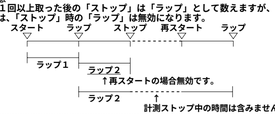
●ラップタイムを測る場合（例：周回走）



※ラップインジケータ機能前回のラップタイムの10秒前になりますと、予告音が10秒間鳴り、前回のラップタイムと同じタイムになるとタイムアップ音で知らせます。
（ラップタイムの最小計測時間は10秒以上です）
※ラップ回数は199回まで表示します。
※操作確認音については、「アラームの使いかた」を参照してください。
※ボタンDを押すごとに「ラップ／スプリット」が計測され、100回目までメモリーされます。ただし、101回目以降はメモリーされませんのでご注意ください。（距離が入力されていますと「速度」も計測しメモリーされます。）
※計測したタイム(ラップ／スプリット)をメモリー(記憶)し、計測中でも、計測後でも自由に呼び出せます。
→「リコール表示」を参照してください。

●計測後「距離」をセットする場合
①リセット状態にしてください。
②－タキメータの使いかた－の「測定距離の合わせかた」の項の①～⑤の操作をおこなって「距離」をセットしてください。
③「リコールの使いかた」の「１」の操作をおこないますと、ラップごとの速度(ラップタイム表示の時)が表示されます。

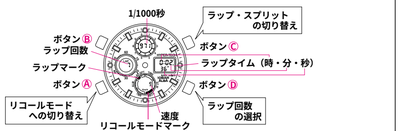
－計測中のご注意－
・「ラップを１回以上取った後の「ストップ」は「ラップ」として数えますが、その後再スタートをした場合は、「ストップ」時の「ラップ」は無効になります。



●計測中に他のモードに切り替えても正常に作動していますが、計測していない場合は、電池寿命が短くなりますので、作動を停止させてください。

■リコール(呼び出し)の使いかた

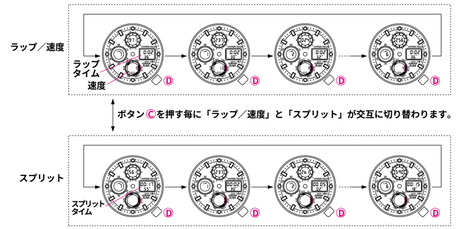
・計測中、リセット状態でも、メモリーの呼び出しはできます。
●ボタンの名称とはたらき



１．計測を終了(ストップ・ストップ→リセット)後に、呼び出す場合。
●ボタンAを押して「リコール表示」にしてください。
①ボタンCを押す毎にラップとスプリットが交互に表示します。どちらかを選択します。
②ボタンDを押す毎に、記憶されたデータが次の順序で表示します。
※推定距離がセットされている場合、速度も表示(ラップタイム表示の時)します。

２．計測途中(ラップ)に、呼び出す場合。
●ボタンAを押して「リコール表示」にしてください。
①ボタンCを押して、呼び出すデータ(ラップ／速度・スプリット)を選択します。ラップ回数は最新データから表示します。
②ボタンDを押す毎に、ラップ回数(データ)が次の順序で表示します。
※ストップウオッチモードマークは点滅しています。

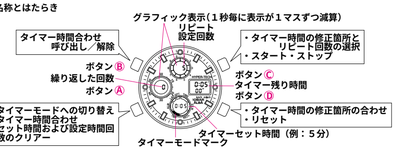
(ラップ回数)
[7] → [1] → [2] → [3] …… [6]
(例：７回ラップを取った場合)



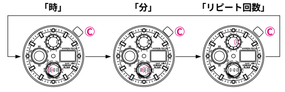
※リセットしても、新しく計測を開始しない限り、メモリーは消去されません。
※ラップ回数が101回以上の場合は、最初のデータから順に表示されます。（[1] → [2] …… [100]）

■タイマーの使いかた

・１分単位でセットできます。
・最大セット時間９時間59分
・リピート(繰り返し)機能(１～99回)付
・セット時間になると予告音・タイムアップ音が鳴ります。
●ボタンの名称とはたらき



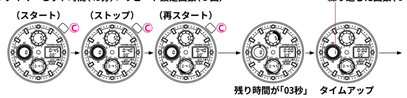
●タイマーの合わせかた
・ボタンAを押して「タイマー表示」にしてください。
①ボタンBを２～３秒押し続けると、「時」が点滅し「タイマー時間合わせ」状態になります。
②ボタンCを１回押すごとに次の順序で合わせたいところ(点滅部)を選ぶことができます。



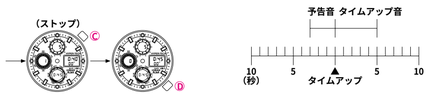
③合わせたいところを点滅させたあと、ボタンDを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。
※ボタンDを押し続けると、早送りできます。
※「タイマー時間合わせ」状態でボタンAを押しますと、セットしたタイム、リピート回数をクリアーできます。
④タイマー時間合わせが終わりましたら、ボタンBを１回押して「タイマー表示」にもどしてください。
押し忘れた場合でも２～３分後には「タイマー表示」へ自動的にもどります。

●タイマーの使いかた
①タイマー時間をセットして、ボタンCを押してスタートさせます。ボタンCを押すたびにスタートとストップを繰り返します。
②タイムアップのお知らせ
残り時間が３秒前から毎秒予告音が鳴りタイムアップすると５秒間タイムアップ音が鳴ります。

例：タイマーセット時間(45分)．リピート設定回数(５回)　　繰り返した回数(０→１回)



③タイマーストップ状態で、ボタンDを押すとタイマーはリセットされます。



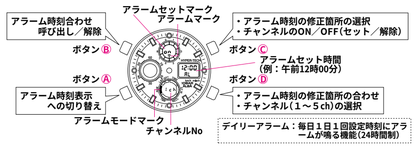
※「タイマー」・「アラーム」のセット時間と「ストップウオッチ(ラップタイマー)」・「報時」が重なった場合、「タイマー」と「ストップウオッチ」が優先となっていますので、時報は鳴りません。
※「タイマー」と「ストップウオッチ」については、後から鳴った方が最優先され、重なった時点で先に鳴っていた方が報音を中止します。
※アラームの鳴っている時間(通常：20秒)は、「タイマー」のセット時間によって異なります。
※リピート設定回数のセットが１回の場合、タイムアップと同時に計測は終了します。(表示はスタート時に戻ります)
セットが２回以上の場合は、セットされた回数分だけ計測を繰り返します。
※鳴っているタイムアップ音(予告音)を止めたいときは、Ⓐ、Ⓑ、Ⓒ、Ⓓ、いづれか１つのボタンを押してください。但し、ストップウオッチを使用中に鳴った場合はボタンⒶ又はⒷを押してください。

●計測中に他の表示(モード)に切り替えても正常に作動していますが、計測していない場合は、電池寿命が短くなりますので、作動を停止させてください。

■アラームの使いかた

・５チャンネル(ch)のデイリーアラーム機能付。
・チャンネル毎にアラームのON(セット)／OFF(解除)切り替えができます。
・「１ch」と「２～５ch」はアラームの鳴り方が違います。

●ボタンの名称とはたらき



●ボタンAを押して「アラーム表示」にしてください。
①チャンネル「１」が表示されます。
②ボタンBを２～３秒間押し続けると、OFFマークが消え「時」が点滅表示(アラーム時刻合わせ状態)になります。
③ボタンCを押しますと、押すたびに「時」と「分」が交互に点滅表示します。修正する箇所を選択してください。
④合わせたいところを点滅させたら、ボタンBを１回押すごとに点滅している数字が１つずつ進みます。
⑤ボタンBを押して「アラーム表示」にもどしてください。
アラームマークとセット(ON)マークが点灯します。押し忘れた場合でも２～３分後には「アラーム表示」へ自動的にもどります。

⑥「２～５ch」を使用する場合は、ボタンDで「chノNo」を選択して、②～⑤の操作を繰り返してください。
※ボタンDを押し続けると、早送りできます。
※12時間制の場合は、AM(午前)、PM(午後)に注意して合わせてください。
※アラーム表示の12H/24Hは、「時刻・カレンダー表示」の12H/24Hに連動しています。

●アラームを鳴らしたいとき、鳴らしたくないとき。
※「アラーム表示」でボタンCを押すごとに、セット(ON)と解除(OFF)ができます。

※「アラーム表示」でボタンCを押すごとに、「１～５ch」のセット状態(ON/OFF)がわかります。

●鳴っているアラームを止めるには。
※アラームはセットした時刻になると、20秒間鳴り続けます。鳴っているアラームを止めたいときは、ボタンⒶ・Ⓑ・Ⓒ・Ⓓいずれか１つのボタンを押してください。但し、ストップウオッチを使用中に鳴った場合はボタンⒶ又はⒷを押してください。

●アラーム音の試し聴き(サウンドデモンストレーション)と報時並びに操作確認音のセットと解除。
※「時刻・カレンダー表示」でボタンCを押すごとに、報時並びに操作確認音のセットと解除ができます。また、ボタンCとDを同時に押し続けると「アラーム音の試し聴き」ができます。

※報時マークを「点灯」した状態で秒正時の報時と操作確認音が鳴り、「消灯」した状態では報時と操作確認音は鳴りません。

■こんな特殊な表示にご注意ください（通常のご使用には関係ありません）

時刻カレンダー合わせ状態でボタンCとDを同時に押すと右のような全点灯表示なりますが、異常ではありません。
ボタンA、B、C、D、いずれかのボタンを押すと時刻、カレンダー表示にもどります。

＝全点灯表示＝

■「ルミブライト」について

ルミブライトは放射性物質等を全く含んでいない環境・人に安全な蓄光（蓄えた光を放出する）物質を使用しています。ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間（約10分間：500ルックス以上）で吸収して蓄え、暗い中で長時間（約3～5時間）光を放つ夜光です。なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度（明るさ）は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。